

教育事業

プログラム開発事業(モデル事業)

「小学生チャレンジキャンプ」

1 趣 旨

本事業は地域や社会に貢献し、次代のリーダーとして活躍できる人材を育成するため、これからの社会で中心となる青年ボランティアが、小学生への体験活動の提供をコンセプトとしたキャンプの企画を、立案から運営までの一連の流れを体験するプログラムとして開発することを目的とする。

2 ねらい

- ・プログラムの企画・運営を通して、企画力や人間関係能力、さらにはリーダーシップや問題解決能力を身につけ、将来のリーダーとなるために必要な資質の向上を図る。

3 事業の概要

(1) 期日・主な内容

平成27年5月26日(火) 第0回スタッフミーティング	ねらいの共有、プログラム素案検討等
平成27年6月9日(火) 第1回スタッフミーティング	プログラム案検討、担当等の決定、踏査計画等
平成27年7月4日(土)～5日(日) 事前踏査①<1泊2日>	ベースキャンプ試作、事前踏査②準備等
平成27年7月17日(金)～20日(月) 事前踏査②<3泊4日>	プログラム案実施・検討、本番準備
平成27年8月8日(土)～9日(日) 事前踏査③<1泊2日>	プログラム最終確認、本番準備
平成27年8月18日(火)～23日(日) ※18日は前日準備 小学生チャレンジキャンプ<4泊5日> 小学校5・6年生20名	<ねらい> ・様々な活動に挑戦し、困難に自ら立ち向かおうとする力を養う。 ・仲間と集団生活をする中で、仲間の大切さや規範意識、社会性を養う。 ・大自然に触れ、自然に対する興味・関心をもたせるとともに、自然保護意識を高める。

7 日 程 (日程・内容は変更する場合があります。ご了承下さい。)				
8月19日(木)	8月20日(木)	8月21日(金)	8月22日(土)	8月23日(日)
送迎バス 8:50 JR 出雲市駅発	起床・朝食(野外炊飯)	起床・朝食(野外炊飯)	起床・朝食(野外炊飯)	起床・朝食(野外炊飯)
受付・開会式 アイスブレイク 昼食(ハイキング)	2nd・3rd チャレンジ ～仲間と協力!3つの池を巡りミッションクリア!～ (浮布池・姫逃池・壺ノ内池) ～仲間と協力!3つの草原を巡りミッションクリア!～ (北の原・東の原・西の原) ※ミッションは当日発表! ※2日目に池プログラムの班は、3日目は草原プログラムを実施。 ※2日目に草原プログラムの班は、3日目に池プログラムを実施。 ※昼食は移動を考慮し、3日間通しておにぎり弁当	4th チャレンジ ～五峰を制覇しよう!～ (男三瓶・女三瓶・子三瓶・孫三瓶・太平山)	Final チャレンジ ～夏物語 in きんべ～	テント片付け 昼食(ハイキング) 閉会式・解散
1st チャレンジ ～さあ、チャレンジの始まりだ!～ (テント設置、班ミーティング(計画)等)	夕食(野外炊飯)	夕食(野外炊飯)	夕食(BBQ)	送迎バス 14:50 JR 出雲市駅着
夕食(野外炊飯)	入浴	入浴	入浴	
ふりかえり	ふりかえり	ふりかえり	ふりかえり	
就寝(テント泊)	就寝(テント泊)	就寝(テント泊)	就寝(テント泊)	

8 携行品 着替え(下着・Tシャツ・半ズボン・靴下)、寝間着、洗面用具(石鹸・シャンプー等)、タオル(バスタオル・

(2) 参加者 青年ボランティア 13名 (島根大学生 10名、島根県立大学生 3名)

4 成果と課題

(1) 小学生参加者・保護者アンケートの主な記述

<参加者>
・チャレンジキャンプを終えて、自分が変わったと思うことは、人に対して思いやりをもったり、協力したりするようになったと思います。いろいろな体験ができてうれしかったです。
・チャレンジキャンプ、自分を強くしてくれてありがとう。班のみんな協力してくれてありがとう。
・初めは友達ができるか心配だったけどたくさんの友達ができました。登山はきつかったけど、すごく楽しかったです。
・5つの山を制覇するのはしんどかったけど、もうやめようとは思わなかった。景色もきれいだった。
・基地づくりが難しかった。登山はきつかったけど楽しかった。新しい友達がたくさんできてよかった。
<保護者>
・昨年参加して、みんなが応援してくれたことが力になったようです。今年はみんなの力になりたいと参加を決めました。全てが楽しかったようです。家の中で「ありがとう」と感謝の言葉を口にするが増えました。人に対して感謝の気持ちを伝えるようになったことがすごいです。
・非日常的な自然の中で、自主性・協調性を身につけてほしいと思いました。食事作りの手伝いを以前よりも自分からやってくれるようになり、料理に興味を持ってくれるようになりました。
・大学生のボランティアが中心となって考える企画なのでとても魅かれました。4泊5日全てテント泊、朝晩の野外炊飯に加えマウンテンバイクに乗って三瓶周辺をまわったり、五峰に登ったりと結構ハードなスケジュールが、初めて会った仲間との絆を深め、人を思いやる気持ち、辛い思いを乗り越えることによって、心の成長があったと思います。
・会ったばかりの人達と生活をし、いろいろな事を体験することで、自分の殻を破ってひとまわり大きくなって欲しいと思いました。願っていた通り、ひとまわり大きくなったと思います。自信に満ちている感じがします。そして、少しやさしくなったかな。

(2) 青年ボランティアアンケートの主な記述

今回のチャレンジキャンプは例年と違い、三瓶のフィールドで、三瓶にあるものを使って、地域との関わりをもって、ということコンセプトにしたので企画の段階でも流れをつくるのがとても難しかったように感じる。そのためかどうかわからないが、少し準備不足のように感じることもたくさんあった。三瓶で集まれる時間以外の時間をどう有効に使えるかが、そのあたりをスムーズに進めていくための必要な要素であると思う。
自主性を尊重すること、子どもが自分達から動くことを徹底して支援してきたが、なかなかうまくいかなかったように思う。指示ではなく子どもたちが自分で気づくような声かけを心がけてきたが、気づいても動かない、誰かがやってくれる、という状態で時間が遅くなってしまいうパターンだった。しかし、根気強く言っているうちに子ども達も少しずつ自分から動いたり、手伝いをしたりという行動が見られた。だまって食器を洗いに行ったり、登山では友達の背中を押してあげたりという姿が見えるようになって胸が熱くなった。待つことはとても大変だけど、その先にうれしい姿があるのだと思った。全員が無事に保護者のもとへ帰って本当に良かった。
企画の内容については、差はありましたが、子どもが楽しめる内容で、適度な難易度だったと感じます。子どもが次第に「ムリ」「どうせしてもムダ」等の言葉を言わなくなり、成長をしていると感じました。自信や挑戦する意欲を引き出す内容だったと思います。
自分の関わり方に自信が持てませんが、他のボランティアと悩み等の共有をすることで自信が持てました。今回のチャレンジキャンプでは、子どもたちと同じように私も自信をつけることができたことは大きな収穫だと思います。
子どもに注意した内容を子ども自身がこの5日間で発揮してくれる場面があり、成長を感じるとともにこの事業で子どもと関わって良かったと思います。
企画に参加した中で、なかなか先輩方が話していることに追いつけず、自分は本当にまだまだ考え方も経験も足りないんだなと思いました。それでも自分なりに意見を出したり、人の話を解釈しようとしてきたことは大きな学びになりました。
昨年とはガラッと変わった班の特徴があり、関わり方に悩みました。今まではろうさく一つ一つに口を出していましたが、自分達で考えてもらうために一歩引いて見守るよう心がけました。1日目、2日目と経つうちに自分達で行動できるようになり、ケンカも納得がいくよう、話し合っ解決する姿を見られ嬉しかったです。
今回は1班4人ということで、いつもよりも1人1人に目を向けることができたと思いました。4人で野外炊飯をしたり、テントをたてたりするのは難しいのでは、とも思っていました。1人1人が役割を見つけ、みんなで協力するようにどんどん成長していく姿が鮮明に見られてよかったです。
子どもの成長を見るだけでなく、自分も様々なことに挑戦し、やり遂げられたことが嬉しいです。子どもへの働きかけ等はまだまだ手探りですが、5日間頑張ることができました。

《成果》

- ・ 青年ボランティアが、プログラムデザインからチラシの作成、広報活動、事前準備および本番当日の運営までの一連の流れを担うことで、主体的に参画することができた。
- ・ 原則班での活動とし、班内での人間関係構築を第一の目標としてコミュニケーションを図れるようにした。生活面に関する基本的事項については班付きスタッフが指導・支援し、その他の場面では小学生参加者の自主性・自立性を尊重するよう、「指示」をするのではなく「支援」をすることを心掛けた。その結果、小学生参加者の主体性も生まれ、その後の過程・学校生活にもその変容があることがアンケートからも読み取ることができる。
- ・ 過去2年は、徒歩（H25）や自転車（H26）で移動することがプログラムの中心であったが、昨年度までの課題を受け、今回はベースキャンプを交流の家に据え、「三瓶周辺地域の活用」と「自主性」というテーマで企画・運営を行った。今まで以上に多くの課題や問題に直面し、大いに悩み考えた青年ボランティアたちであったが、青年ボランティアにとっても、小学生参加者にとってもより主体的な活動となり、アンケートからも分かるように、小学生参加者の成長や自分の成長をより確かに実感できたチャレンジキャンプとなった。

《課題》

- ・ 3か月前から準備を進め、こちらで設定した2回のミーティングと3回の事前踏査以外にも時間を見つけて集まり話し合いを重ねてきた。早めに方向性が決まってよかったという意見がある一方、分担や内容に見通しが持てなかったという意見もあった。今後に向け、役割・分担の明確化をどのようにすればよいのか、さらに情報共有や共通理解の仕方も検討する必要がある。
- ・ 本モデル事業や看板事業「さんべ夢ステージ」で充実感や達成感を味わい、企画運営のノウハウ身につけ、リーダーシップを発揮した青年ボランティアの中から、近隣青少年教育施設で活躍する青年ボランティアを集めての交流会を自らの手で企画しようとする者が現れている。このことは、青年ボランティアの養成・育成に力を入れてきた当施設の成果ではないかと考えるが、ボランティアの組織づくり等、当施設がどのような形で支援していけるかをしっかりと検討し、今後の青年ボランティアの在り方を考えていきたい。



(担当：企画指導専門職 濱野健一)